令和6年度富山市民学習センター運営協議会 会議録

1. 日時 令和7年2月14日（金） 10:00～11:50
2. 場所 富山市民学習センター4階 講義室1
3. 出席者 委員側
藤田公仁子、木本秀樹、布村 昇、堀川教世、大島麻美、奥野美友紀、
永田円了、岡田 茂、高城喜代子、橘 恵子、山本弘子
事務局側
大久保秀俊（市民学習センター所長）、寺島優子（市民学習センター次長）
定塚奈々（主査）、河村有華（主事）
4. 資料 「令和6年度市民学習センター事業等について」
施設概要、事業概要、年間事業、市民大学開設事業、
生涯学習の啓発事業、市民大学受講者の構成、
市民大学受講者数等の推移、受講者アンケート集計結果
「令和7年度市民学習センター事業計画案について」
スケジュール、令和7年度富山市民大学の概略、
2025 富山市民大学要項・学習日程
5. 次第
 - ・ 開会
 - ・ 出席者紹介
 - ・ 会長挨拶
 - ・ 議事
(議長：藤田会長、資料説明：事務局)

藤田議長 令和6年度の事業報告、令和7年度の事業計画について説明をお聞きしまして、やはりデジタル化、LINEによる配信は、使いやすいが、反面使いこなせるかどうかということが今後の課題になるのではないかと感じました。同時に、これは新しい視点が出てきていると賜りました。

それでは、只今の事務局からの説明につきまして、ご質問や、提案がありましたら賜りたいと思います。

永田委員 アンケートに、資料をカラーにして欲しいという要望が出ています。カラーにすると大分高くなりますか。

事務局 カラーの資料は、1枚50円。受講者の負担になってしまいますので、なるべくモノクロの資料でお願いしております。

永田委員 受講者のなかには、ちょっと高くなってもいいからカラーでという意見もありますね。

事務局 カラーでないと伝わらないようなものにつきましては、枚数を絞って1、2枚程度ならご負担も少ないのではないかと考えております。

藤田議長 資料をカラーにするか、モノクロにするかは、生涯学習講座を運営する経費との兼ね合いもあり、難しいのが現状であります。

山本委員 2つお聞きします。

昨年度の議事録の中に、若い受講者を増やすことが1つの課題になっていて、今年度の事業結果を見てもやはり、今働き盛りの方々がなかなか学ぶ機会がなくて、この市民大学の良さを知らないまま退職されることがあるような気がします。例えば土曜日の講義の内容を少し増やすとか、あるいは、何か若い方々が少しでも何か学ぶ機会を選べるような手だてを考えていらっしゃるかを1つ質問します。

またもう1つは、学友会でも協議しているのですが、なかなか市民大学祭に、来ていただけないという現状があります。市民大学のすばらしさを少しでも多くの方々に知ってもらいたいので、例えば、市民大学祭以外の会場で、創作コースの作品などを展示するような機会を作ることができないものかどうか。

以前、確か富山駅の地下通路に、小中学生の作品などを展示するようなスペースがあったような気がします。例えば市役所やCiCのどこかで、作品展示することができないものでしょうか。

事務局

ご意見ありがとうございます。

1つ目の若い受講者を増やすために、若い方が来ることができる時間帯を増やすことや、土曜日の講義を増やすというご提案は、昨年度もありました。職員の分担等、難しいところがありまして、結果的にはできておりません。

そうは言いながら、例えばスイーツの講座や陶芸などは平日の日中の講座であっても、興味のある講座だと若い方も若干来ています。土曜日に限らずとも、平日でも興味があれば受講される可能性はあると思っています。そうは言いながら、基本的にはやはり土曜日が一番来やすいと思いますので、そういったことができるかどうかについては、今後検討させていただきます。

2つ目の市民大学祭以外の会場での周知PRの方法につきまして、具体的なお提案をいただきありがとうございます。市役所やCiCについて、作品展示が可能なものかどうか調べたいと思います。

藤田議長

生涯学習が専門である私の視点から見ましても、このアンケート結果を見ますと、初めてという方や2、3年目という方の割合がとても優秀かと思えます。新規の受講者を作っているところを考えると、コロナ禍以降、この数字というのは、逆に新規受講者が増えていく可能性のある数字かと思えます。

私は、県民カレッジ、富山大学の公開講座、市民対象講座の受講者の数字を見てみますけれども、こちらの市民学習センターさんの数字というのは、とても誇れるべき数値かなと思います。その次は世代と内容ということです。現役世代を取り込むには、今話題のリカレント教育に踏み込むのかということですね。

作品展示のことですが、例えば、市民病院は考えられないでしょうか。よくある他県の事例を見ますと、病院で、市民サークルやボランティアさんが作品展示している場面を拝見いたします。皆さまのお知恵をお借りしながら検討していきたいところです。

他になにかございますか。

布村委員

例えば公民館でも、住民が優先なんだろうけれども、空いているスペースがあるかと思えます。できるだけ何回も展示・公開するということでは、考える余地がありそうです。

また、全体的に素晴らしい活動をされていると思います。特別講義・特別講演会は、受講者のニーズをキャッチして、多様性も展開していると思います。例えば熊とか災害とかのテーマを取り上げられています。

アンケート結果を見てみますと、現地学習をしたいとか、実習をしたいとかの声がいくつかあります。実習、現地学習は、後ですごく印象に残ります。しかし、実際それをするのは大変なんですね。交通の問題とか駐車場の問題とか、雨が降ったらどうするとか、そういう問題があります。しかし、例えばいろんな博物館などで学芸員から直接話を聞くといろいろな視点を得られるかと思えます。

また、富山市にはたくさん文化財がありますが、ほとんどまだ知られていないので、そういったものをいろんな角度から紹介するために、できる限りこういう実習、現地学習を少しでも広げていただきたいと思えます。

それから毎年同じテーマなので、何とかならないかというのがあるんですけど、例えばコースを少し多くして、ローテーションで、2年に1回やるとかいうことも可能かなと思えました。

また、少数ですが、学び足りない、もっと上のことをやりたいという意見がありました。多くの方が市民大学祭の発表はちょっと、憚られる意見が多い一方、一部の人は、研究、活動成果を生かしたいとか、もっと学びたいという気持ちがあるので、現地学習はもっとできたらいいと思います。

現地学習は、初心者から質問を受け、答える立場になって知識を整理するという場面があるのを、私も学芸員として経験しました。現地学習にはそういった側面があります。

それからテーマについては、多様なテーマを展開していただきまして、非常に意欲的だと思いますが、だんだん欲が出てきます。

富山は今、大変注目されています。歴史だとか産業だとか、自然と実は繋がっていることがあって、それぞれ学ぶのも面白いが、それぞれが繋がっていることを感じるができる「富山学」みたいなものがあればよいかと思います。

安全面についての問題ですが、富山は雪が降るけど地震も台風も少なくいいところだと思われていたが、地震が来てみると、予期せぬことがあって準備が足りなかった。この対策の啓蒙は、防災部署が主にやるべきことなのでしょうけれども、やはり潜在的に皆さん、どうしたらいいかという不安が蔓延していると思うので、そこら辺について、もう少し踏み込んでいいのかと思いました。

最後に毎年言っていますが、自然科学については、科学博物館がいろいろやっていますが、生物とか地学とかの分野について中心になっていますが、物理とか数学とかを身近なことで学ぶ講義があればと思います。

藤田議長 多くの意見ありがとうございます。
これについて、事務局いかがでしょうか。

事務局 ご意見ありがとうございました。
現地学習については、やはり印象に残るということで必要かと思っております。「美術の世界」コース以外で実習と言いますと、「富山のまち」コースにおいて、中心市街地を歩き、今年度はそれにさらに富山駅周辺を歩くというのを1回増やしまして、現地学習を実施しました。あとは「和漢医薬学」コースで実際に民族薬物資料館の資料を見るという、現地学習がございます。

来年度1つ増えたものとしましては、要項の9ページ「考古学」のところで、1つだけ現地学習を追加いたしました。最終回の10月10日に、なるべく受講者の負担をなくすために、この近辺ではありますけれども、歩いて、埋蔵文化財を知っていただくものとししました。

コース数を多くするということについては、職員数にも限りがあるので、今回は2つ増やしましたが、2つを廃止するという形で、差し引きコース数は変わらないということになりました。コースのリフレッシュといったことにはなっているかと思えます。

2年に1回のコース開催というご提案をいただきましたが、講師に依頼する関係上、2年に1回となると難しいところもあるかと考えております。

3つ目の全体的な「富山学」といった、いろんなことが繋がっていることを知るのには確かに素晴らしいです。全体とまでは言えませんが、「富山の環境」、「富山のまち」、「ジオパーク」コースは、(富山について)様々な講師から様々な視点による講義があるという意味で、「富山学」ととらえています。講師を入れ替えながら、いろんな視点から、富山について考えていただく講座にしたいと思っております。

最後の物理とか数学とかの講義のご提案につきまして、昨年もちょうだいしていましたが、ご対応できなくて、今後また(アンケートの)ご意見や、講師の方が見つかるかなどとあわせまして、検討して参りたいと考えております。

藤田議長 専門的などころに関しましては、実は連携をとっております、富山大学の方でオープンクラスという大学、大学院の授業も公開しておりますし、本当に受講者の皆さんは、実は県民カレッジ、市民大学、富山大学の公開講座、オープンクラスをいろいろ巡っています。ですから、そのすみ分けまでいきませんが、皆さん上手にご利用されていると思いますので、逆にそれを全部市民学習センターでとなりますと、他の機関が困ってしまうというような、競争的環境に陥るかもと、ドキドキしながら聞いております。

本当にでも、「富山学」というところではもう全体に網羅されていると思っております。逆に県民カレッジさんはテーマごとが強いようです。

1つ私がもったいないと思ったのは、実は富山市で「薬の語り部」の養成をしまして、過去・現在・未来を全部語り、今の薬の状況まで語るという形で養成して

います。それを3年かかって受講された方たちが、今年度、県民カレッジで講師を務められています。本当は市民大学でご利用いただけたら一番良かったのにとおもいます。そこもいろいろネットワークという部分ではないかと思っております。そういうような、活躍している方たちも出てくるということも知っていただけたらいいと思っております。

それでは次、何かございますか。

堀川委員 講義の開催形式についてですが、昨今DX、リモート講義など県立大学の方でかなり高齢の方でもできている。この市民大学の趣旨として、ここに来ていただいて講義を聴くというのもあるかもしれない。しかし、コロナ禍以降、時代はかなり変わっています。いきなりとは言いませんが、これからちょっとデジタル化を見据えて、試験的に例えば、講義をリモートと、現地学習とのハイブリッドという試みをやっていく方がよいのではないかと。若い人が参加しないというのはそういう理由からかもしれない。50代はデジタル全然使えます。これから高齢者はどんどん利用していくだろう。やはり、デジタル、リモートは必要だと思います。

事務局 ご意見ありがとうございました。

おっしゃるとおりコロナ禍のとき、リモート講義という手段についての検討はありました。しかし、著作権等の問題や、その時会場にインターネット環境がなかったということがありましたので、物理的にも難しいところがありました。そのうち、コロナ禍が明けて、対面講義ができるようになってからは、やはり、ここまちなかに出てきていただいて、そういったことも健康に繋がるとか、また市の政策としてまちなかに来ていただきたいとか、いろんな複合的な意味合いもありまして、交流を深めていただくためにも、今、対面でできるのであればやはり対面を優先したいというところではあります。

ただやはり、もしご要望が多くなれば検討も必要となってくるのだろうと考えております。

ご意見ありがとうございました。

藤田議長 今の問題ですが、受講者にアンケートをとりますと、「対面」を要望されます。やはり世代のこともありますが、「対面」と「リモート」とどちらがいいですかと聞くと、「対面」で体験されていらっしゃる皆さんは、「対面」と答えられます。そうじゃない方に聞くと「リモート」となるのですが、逆にリモートになりますとやはり経費がかかりますから、市民を平等に扱うというところで、どう解決していくのかというところは、やはり問われると思います。

また、もう1つは、やはりにぎわい創出というところ、市立図書館もそうですし、こちら市民学習センターもそうですが、まちなかに出てきてほしいという市の政策があります。リモートとなったとき、対面とリモート両輪でどのようにバランスを取っていくのかは、次の課題になっていくかと思っております。逆に県立大学さんはリモートで頑張っていたいただきたいと思っております。富山大学は、基本対面です。リモートでなければならぬ内容はリモートでしますけれども、基本は公開講座は対面で実施しております。これは結局ニーズに合わせてというところで、対面を基本という形をとらせていただいております。

なぜかと言いますとそれは、本学の場合は、全講座有料講座です。ですからその部分で、やはりいろいろ考えるところがあることはご理解いただきたいとお答えしているのが現状です。

だからこのコロナ禍だけで、リモートに走るところもあれば、そうじゃない意味合いのところもあるということで、この市民学習センターは富山市の政策の方向性の中で進んできたと思っております。

堀川委員 そうしますと、やっぱり公共交通機関なんですけど、都会みたいにそういう地下鉄などはない。受講者の半分以上が自家用車という現状から、もう少し柔軟にやってみてはどうかと思います。

藤田議長 それについては、やはり富山市の政策、まちづくりの中でコンパクトシティ施策というのもありまして、公共機関を利用するというところに、環状線が走っているとか、

南北接続したとかいろいろ流れがございますので、その部分もご理解いただいたうえでということになるかなと思います。

ですから、都会とも同じにはならない地方都市の、やはり富山市のいろいろ今までの経緯や富山市のつくり、その流れというものも抱えながら進んでいます。

もう1つはやはり富山市は自家用車の文化というものがありますから、そこも他県また他の自治体さんと同じにならないということが成り立ちになっているかと思えます。

その政策についてのご意見になりますと、なかなか難しい課題なので、この市民大学の市民学習センターではなくて、別の部署にご意見をいただけたらと思います。

堀川委員 私が一番心配しているのはもう時代が変わっている。もう、昭和、平成、令和なんです。時代も変わってきている。これから、デジタル知識が必要です。そういう時代に対応するためにリモートという手段もあってもいいかと思う。少し柔軟に考えていただきたい。これは単なる要望、希望です。

藤田議長 ご意見としてうかがってよろしいでしょうか。

堀川委員 はい。

藤田委員 ご発言いただいてない委員の方いらっしゃるとしますので、お願いしたいと思えます。奥野委員いかがですか。

奥野委員 先ほど作品展示のお話がありましたが、市立図書館、市民病院で、私の知り合いの方が、草月流のお花を2階の回廊みたいな場所の壁に展示するご案内をいただいて行ったことがあります。

それから、ちょっと敷居が高くなるかもしれませんが、ガラス美術館のギャラリーは、一般でも貸出しをしていると思います。市民団体や、私の知り合いのグループの方も、日本画など展示をされているのを、ご案内いただいたこともあるので、市の事業だったら割引とかあるのではないかと思います。

若い人をということですけど、とにかく知らないというか、そもそも新聞をうちで購読している家庭がどれだけあるのかと同じように、広報とやまを手取るという時点で、関心があるかどうかだと思います。

単発でもいいので、市民大学プレゼンツみたいな感じのものを行うというのはどうでしょうか。講演会でもいいと思いますし、講座でもいいと思います。そういうようなものを例えば市立図書館や、昨年ちょっとお話ししましたが、ほとり座で、面白そうな映画が上映される舞台挨拶とかに、市民大学がディレクションしたような方にちょっとトークイベントみたいのをしてもらおうとかです。それは土曜日とか日曜日でないとなかなか、人は来られないと思います。でも継続してやらなくてもいいので、年に1回とか、この講演会をされてるような感じで、パンフレット等に富山市民大学というフレーズの掲載や講座の紹介をすることがあってもよいかと思います。そこで、その人たちが例えば将来、受講されるかどうかは、その人が決めればよいと思います。

しかし、私改めて受講料を見てびっくりしましたが、ものすごく安いです。ちょっと有り得ないような値段ですね。講師は本当に専門家であることも伝えるやり方があると思います。そのためのお手伝いであれば、どれだけでもさせていただきます。

あと今富山市の学校は、コミュニティスクールというのを導入しています。私も地元学校のコミュニティスクールに関わっているのですが、市教委の主催したコミュニティスクールの研修会のときに来られた講師から、コミュニティスクールに関わる人を養成するための市民講座を作って、それで養成していくというか、コミュニティスクールに関わる人材を養成していくというようなことをお聞きしました。

実際、それを富山市民大学にやってほしいと言っているわけではないのですが、重なる要素というか、実は受講者は地域のいろんな活動に関わっている方もおられるような気がします。しかし、ここで皆さんの目的は、本当にものを知る、学ぶ楽しさそのものに喜びを感じておられる方がとても多いと拝見しました。ここを受講したからすぐ地域に行ってください、もうこれ以上何か求められても困ると思いますが、でもそういう形で、この市民大学の方でもやってくださると、いろいろなところに関わる可能性が増えると思います。

- 藤田議長 ありがとうございます。
今、新しい提案もいただけたというところでございます。やはりどういうふうに市民大学を知っていただくのかというところで、今年、ケーブルテレビ出演はありますか。
- 事務局 ケーブルテレビの出演は枠がいっぱいで出られませんでしたが、シティFMラジオに所長が出演します。あとはその代わり職員出演ではないのですが、「富山市のお知らせ」という枠が各マスコミ、富山テレビやチューリップテレビ、北日本放送などがあります。そういった形でのマスコミ周知が今年はできます。
- 藤田議長 ケーブルテレビ、すごく反響があるので残念です。でもシティFMも結構聞いてらっしゃるかと思しますので、所長さんががんばってください。
- 事務局 宣伝という意味では、今回、広報とやま、今度2月20日号なんですけど、大きく写真で取り上げられています。これは、新聞を取っているか否かに関わらず、全戸に配達されるので、インパクトが大きいと思っております。
それから奥野委員のおっしゃるように、例えば、市役所は人がたくさん集まりますが、1階のコンビニの横に特別支援学校の生徒の作品展や、それから2階の北陸銀行では婦人会の作品展みたいなものを行っています。それから富山市ではないのですが吉峰ハイツのお風呂屋さん、通路のところに、いろいろな展示がしてあります。吉峰は富山市ではないから論外なのですが、そういうところで、例えば市民大学の受講者の方々の絵画や書を展示するというのもいいかと思っております。
ただ市民大学祭の特別講演会講師の能作克治さんがおっしゃったことですが、能作は、コマーシャルとかセールスということはあまり力を入れてないそうです。何が一番かというところ口コミらしいです。ですから、この53コース、この講師の方々本当に充実していらっしゃいますので、何とか口コミで周知したいという思いがあります。
- 藤田議長 本当に能作さんは、講演がすごく多く、また素晴らしいです。お話上手で、私は、3回聞かせていただきましたが、ただ克治さんではありませんでしたが、素晴らしい講演でした。ぜひ製品を見てみたいというような内容になっていました。
- 奥野委員 ケーブルテレビですが、婦中町は上婦負ケーブルで富山ケーブルではないと思います。富山ケーブルテレビだけじゃなくて上婦負でも宣伝されると何か違った展開とかがないでしょうか。
- 藤田議長 それでは、他にございますでしょうか。
橋委員いかがでしょうか。
- 橋委員 先ほどから本当に皆さんおっしゃることが素晴らしいと聞いていました。私も、一応、家でまとめてみたこととお話したいと思います。
私は市民大学を受講して、もう15、6年と古いです。以前は学友会の常任委員も10年あまりやっております、そのとき、受講者数がどんどん減っていく状況で、去年よりは増やさないとという思いで受講手続きの時にやきもきしていました。この資料の10ページに受講者数の推移が載っていましたが、コロナのとき、休校とかもあって、受講者が大変減少したのですが、再開してからは少しずつ上がってきている。これを見て、改めて増えつつあるなど、たいへんうれしく思いました。
あと9ページの方の受講者数の年齢層ですが、私も含めて、かなり高齢化になっています。先日、学友会のコース委員会が開催され、その資料の方に、大学祭のアンケート結果の自由記述に、各コースの内容、出席等を客観的に評価し、若い世代に興味のあるコースの入れ替えが必要かという記載がありました。私は、若い世代という全くそっちに目がいっていなかったもので、この意見で、これから受講者を増やすためには、若い世代のことを少しずつ考えていった方が、これから増えていくのではないかという思いました。
講義の開始時間についてですが、今回、概ねちょうどいいという意見だったようですが、私はいつもアンケートには「早い」の方に、印をつけています。今回の7%

大体1割の人が、早いと感じておられる。先ほど寺島次長の説明で考慮していただいているのもよくわかりましたが、100円バスとかの時間帯のこともあります。私自身も朝は結構忙しいです。9時半を10時ぐらいにすると受講者が増えるのじゃないかと思えます。

あと大学祭のアンケートの結果に、カメラ講座とか、寸劇を楽しく演じる演劇コースとかがあればいいという意見が書いてありました。この資料にはアンケート結果の「希望の新設コース」の記載がありませんでしたが、先ほどの事務局の説明で、実は123もあったというのを聞いてうれしく思います。

また新しいコースの開設は受講者増に繋がるかと思うので、また検討してください。何かコースを増やすとか、曜日の変更とか、市民学習センターが大変な作業になるとは思いますが、本当によろしく願いいたします。

受講者を増やすためにマスコミ等にも働きかけていただいているようですが、やはり、私たち受講者の口コミ、誘いがけ、それが一番だと思っていますので、私自身も友人知人にどんどん声をかけていきたいと思えます。

事務局

ご意見ありがとうございました。

講義開始時刻につきましては、その1割の方にそういう意見があるということで、ご要望はある程度高いかとは思っております。それで永田先生のコースにつきましては9時45分からと、若干ずらしました。もちろんそれで喜ばれた方もいらっしゃると思いますが、ただそのアンケートの中では逆に元の時間がよかったという意見があり、本当にそれぞれの方によって様々だと思っております。

変えることによってどういう影響が出てくるのかわかりません。しかし路線バスの本数が減ったりとか、時間が変わったりということでやはり状況も変わってきているのかなというところは確かにあります。これについては、やはり検討事項かと思っております。

例えば10時から開始するとなると、2時間で12時終了になってしまうということがあり、私どもが午後の講座の準備が間に合わなくなります。そういったこともいろいろ勘案しながら、考えていければと思っております。

あとは受講者さまが口コミをしてくださるということは大変うれしく、本当にありがたいと思えます。またぜひこれからも受講していただいて、また周りに勧めていただければ大変うれしく思います。よろしく願いいたします。

藤田議長

ありがとうございます。

本学の情報専門の先生が言うには、一番情報が確実に伝わる方法は、口コミだそうです。口コミほど信頼性があるということを経験の中でも出て、情報専門の先生もそうおっしゃってたところであるほど納得しました。

若い世代を取り込むには、本当にこの講座自体の時間を変えていかなければ難しいと思っております。やはりお勤めしてる方たち、働いてる方たちを対象にするのであれば、平日は夜の7時以降という形になりますし、あと土日を実施させることとなります。そうしますと、こちら市民学習センターの勤務体制までも考えていかなければなりません。要するに市民学習センター自体の運用というところにもメスを入れていかなければならない問題になっていくこととなります。そこに踏み切るのであれば、市民学習センターを今後どのような方向でいくのかという、大元の根本的なところを検討していかなければなりません。

やはり講座の開始時間、難しいです。そこは、いろいろなご意見やアンケート等を見ながらの根拠が必要ということですね。そのうえでまたご検討いただければと思います。

学友会の話も出てきたところで、岡田委員どうでしょうか。

岡田委員

一（いち）受講者の立場から2点、私は学友会という組織の役員の1人ですからその点から1点、全部で3点お話をさせていただきます。

まず今年は、これまでコロナの関係で音楽関係のコースがしばらくありませんでしたが、「女声合唱」コースが5年ぶりに復活し、「リコーダー演奏を楽しもう」、「朗読を楽しもう」というコースなどでコース選択が増え、大学祭の発表で大変成果を上げ、見ている方に本当に喜んでもらえました。こういう音楽関係、あるいは表現するコースは、大学祭も盛り上がるのではないかと思います。来年度は書道が加わり、新たな

表現的なコースが増え、これからもこういったコースを増やしていただけたらと思います。

2点目はデジタル環境の整備ということで、先ほども紹介がありましたけれども、1つは電子申請ができるようになりました。私も今年度、電子申請をしたのですが、今まで最低2回足を運んでいたところ、電子申請のおかげで1回で済むようになりました。今年度は3分の1の方が電子申請されたということですが、これがどんどん増えてくるのではないかと思います。

それからLINEによるいろんな情報配信ですね、これも私も登録させていただいています。これからは定期的に必ず、例えば、週1回、2週間に1回、配信してほしいです。講座やイベントの直前に配信されれば、行ってみようという思いになります。

最後3点目ですが、昨年から学友会長をさせていただいております。会員の組織率がこれまでずっと90%前後でした。それが、コロナ禍前後くらいから傾向が変わってきてまして、どんどん下がってきている状態で、令和6年度は49.5%まで下がってしまいました。

それは、結局2人に1人、受講者のうち2人に1人というような状況になって、今後これを維持できるかは非常に難しい問題で、私たちも学友会組織の周知、教養講座の開催などいろんな働きかけをしているところです。

やはり受講者の高齢化といいますか、それからいろんなそういう団体への組織に入会することへの抵抗感みたいなものが、いろいろな団体でもあると聞いています。学友会として新しい活動というのを展開しないと、今後いろいろと活動していくのは難しいと感じています。

藤田議長 市民大学で一番特徴的なのが「学友会」です。組織率が、それでも49.5%保つというのはすごいと思いますが、ただやはり会費も半分になってしまいます。今後の働きかけですね、そこをまた、いろいろなお知恵を借りながらどういう形になっていくのかということですね。

ご報告ありがとうございます。
それでは高城委員お願いします。

高城委員 私も岡田会長と同じ学友会の常任委員編集部会で、「けやき」を編集しています。けやきは、受講者の声を載せています。受講者の声を載せる広報誌はこれしかありませんのでしっかり受講者の声を掲載したいと思っています。

残念だったのは、市民大学祭に、受講者が半数くらいしか来ていないことです。それがものすごく残念で、こんな安いお金で勉強させてもらってるのに、どうして市民大学祭にも来ないのかと残念な気持ちです。

大学祭に来てもらうために、コースを修了した修了証というものを、大学祭に来たら渡しますという提案をしたいです。現在修了証とかそういうものは一切、どのコースも出ていませんが、それをもらえないと修了したことにならないということになれば、受講者全員が大学祭に来るのではないかと思います。これは私の1つの提案です。

あと私は、8年間受講しています。最初は日本画のコースだったのですが、2年前から座学のコースを取っています。今年度は3つコースを申込みました。1つのコースは落選したのでキャンセル待ちをしました。初めてキャンセル待ちの順番に並び、キャンセル待ちの人が朝早くから並んでいることに大変驚きました。

また「富山のまち」コースで現地学習をした際、11人の受講者にスタッフ4人もついてこられたことに驚きました。これは0歳児を見る保育士よりも多いです。しかし、現地学習というのはやっぱり危険が伴うのでこれだけ大変なんだろうと、市民学習センターの方々に本当に頭が下がる思いでしたが、「富山のまち」コースは大変よかったです。きっとほかのコースも良いのだろうと想像しますので、私も口コミで友達に、どんどん広げて、受講者を増やしたいと思っています。

藤田議長 貴重なご意見ありがとうございます。

本当に「富山のまち」コースの講師は、いろいろところで現地学習をしているので、相当場慣れをして、非常に楽しかったのではないかと思います。

また、運営していくスタッフの皆様には本当に頭の下がる思いです。本当に無事につつがなく最終回が迎えられるというのは、この市民大学のスタッフ、講師の先生の

おかげだと思えます。

それでは大島委員どうでしょうか。

大島委員 私は創作系の講座を担当しています。この短期間で皆さん素晴らしい作品を創作されるので、他の委員が言われたように、大学祭だけじゃなく、どこか市の公共のところを使って展示できれば、市民大学を周知してもらえるかと思えます。

あと今現在、市民プラザの2階で、富山市美術作家連合会展をやっております。日本画、洋画、といった5科でやっています。毎年この5科のどこかの科が親子体験を企画するのですが、今年は日本画が担当し、30組の親子で34人が体験されました。そういう何か出張講座のようなものができれば、またそれも周知になるかと思えます。

若い受講者を増やすということですが、今から少子高齢化になってくるので、どんどん若い方が減っています。私はカルチャー教室もやっていますが、今はめったに若い人がなかなか入ることがありません。

デジタル環境のことで、今、ホームページから自分でダウンロードできるとか、それをできる人は結構います。講座に来られる方は、結構半数以上の方がこういうデジタルができていると感じています。今からは定年も伸びていますし、なかなか余暇を楽しむという時間が少ない方が多いと思います。でもこれだけできるということは皆さん元気なので、若い方だけじゃなくて、高齢になっても、外に出られるように、定年された方とか年齢がちょっといった方でも、どんどん入っていただけるようになればと思います。

藤田議長 ありがとうございます。

デジタルのことは堀川委員からも意見が出ていましたが、ちょうどコロナ禍前ぐらいからデジタルについて学ぶ場がすごく多くなりました。県民カレッジさんが地域でいろいろな講座を開いていたりしたものですから、きっとそういうところで学んで何でもできるようになった方が多くなってきたと思います。高齢の受講者でもできるということは、どこかで学んだのか、またはお孫さんに聞くかのどちらかといった感じになっていると思います。

学びの場をどう広げていくのかの考えや意見がありましたら、よろしく願いいたします。

木本委員 大変素晴らしいご意見たくさん伺いました。

私は、アンケートの自由記述を以前読ませていただきました。厳しいご意見もありました。聞いてよかったと思っておりますので、できれば、他の講師の方々にもお伝えされたらいいのではないかと思います。

それから中級コースを設定するという点に関してです。どうしても生涯学習の一般性とか普遍性というものを求めますが、時には階層性みたいなものがあれば、また1つの息の長い活動に繋がっていくのではと思いますので、またご検討いただければと思います。

各コースの学習課題ですが、複数の方が担当されるとき、学習課題の設定は難しいだろうと思います。しかし複数の方が担当されるときも何かストーリー性みたいなものがあればと思います。そのためにもコース委員がいらっしゃるわけなんですけど、例えば、各コースの第1時間目に、しっかりとガイダンスや、あるいはこういった方針でやるんだとか、ワークショップを取り入れるとか説明を、より多くのコースがそういう取り組みをしていることがわかれば、また目を引くのではないかと思います。

次に、先ほどデジタル化の話がありまして、対面かリモートかということですが、資料のデジタル化も大事だと思います。これには予算もかかりますし、遠い将来のことだと思いますが、例えば郷土博物館なり、美術館なり、この市民学習センターなり、図書館なり、そういった施設がその資料というものを介して、デジタル化を実現していこうという動きの中にあるとも思っております。

最後に1つですけれども、受講者がほとんど交流を望まないという意見がありました。しかし市民学習センターにおいて、コースを通して人づくりは本当によくできていると思います。この方々自身が、いろんな成果を上げておられるということなんですけど、それが次の仲間づくりになかなか伝わっていかない。そういう時代なのか、県民性なのか、それも含めてですけれども、先ほど奥野委員が言われた人材づくりと言ったようなことも兼ね合わせて、ぜひ間に入る人、講師と受講者の方の間にある人、

コーディネーターが、必要なのではないかと思います。

先ほどの富山学の話が出ましたが、以前、講座に神通川流域や呉羽丘陵というものをテーマにした地域学みたいなものを取り込んでみました。受講者が旧市は非常に多いが、旧市以外の方々の参加が少ないということを考えるうえで、こういった地域学を取り入れる考え方も1つではないかと思います。

藤田議長

ありがとうございました。具体的にまとめていただきました。

やはり昨年もありましたが大学祭をどうPRし、受講者に参加してもらうのかは、今後これも考えていかなければならないことです。あと新しくLINEについて、岡田委員さんから出ましたように、どのような形で使っていくかということです。LINEが普及し、いろいろところでLINE配信されLINE慣れが出てきてますから、定期的に配信するものと、スポット的なもの、今を知るみたいなベストなものを配信する工夫が必要です。新しいものを求められる受講者がいて、それにどう応えていくかということですね。それと同時に市民学習センターの市民大学をどのようにPRしていくのかということです。

それから、高城委員から修了証という良いご提案をいただきました。そこまでしなければ参加いただけないとなると、大学祭をどのような形で、要望に応える形にしていくのかということだと思います。

それから、コース委員がいなければ、スタッフの皆様の本当に負担になります。木本委員から出ましたように、今はやはり学びと活動へ結びつけるところにコーディネーターやファシリテーターが必要ということで、世の中では新しい社会教育士という存在が今すごく話題にはなっているところです。そういうふうな形でコーディネーターの方は、コース委員がそれを兼ねていただくのかと思います。それを職員が負担するとさらなる負担になりますから、そこをどのように解決していくのかという、また新しいご提案が出てきたかと思います。

他にご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

永田委員

皆さんのご意見を聞きながら、ちょっと気づいたことが2つあります。

1つは受講料のこと。10回で3,000円というと1回300円ですよ。私の経験からですが過去の講義でご夫婦のおじいさんのほうが前列で、最初から終わりまでずっと寝ていらっしゃるがありました。それは講師としては士気が下がるんですよ。

つまり1講義、300円だから別に寝ていてもいいよねということだと思います。だから受講料を上げて収入を得るという意味じゃなくて、ある程度の負担、受講料が上がることによって、真剣度が高まると思います。10回3,000円はかなり長い期間の料金でしょうか。

事務局

令和2年に値上げをして、3,000円となりました。ちょうどコロナのタイミングで値上げということになったので、その後の受講者数がそれによってどう影響するかを見たかったところですが、それが把握できなかったということもありまして、コロナ禍が明けて、やっと動き始めたところですので、今値上げするのはちょっと早いかなと思っています。

永田委員

もう1つは、市民大学の趣旨である継続的な学習機会を提供するというのをもう少し踏み込んで、どういう哲学でどういうものの考え方でという、目標を出していただけたらと思います。考える事柄を学ぶというよりも、考えること自身を学んでいくんだとするとその人の人生というのは、より豊かになる。そういう長い目標を設定するのもひとつかと思います。市民大学という、大学という名前がついていますから、そのあたりが専門学校との一線を引くことができる違いだと思います。技術も大事ですけど、技術を学ぶことを通して、自分の考え方を伝えていくんだという趣旨で、そういうことを目標として考えていくことも必要かと思いました。

藤田委員

ご意見としていただきました。生涯学習を専門とするものとしましては、この開設した時期のこともありますけれども、生涯学習の目的というのは、個々、バラバラでいいのです。一人一人の目的に応じて、どのような学習機会の場を提供できるのかというのが公的機関に求められたというのが趣旨なんです。ですからそういうところにあるので先ほど寝ていたというのも、ここに来ることを目的にしている人達もいると

ということです。その講座のこの答えを学びたいという方もいらっしゃいますけれども、週1回、この時間にここに出て、学ぶ場に着席して、そこで誰かに会い、講座が目的でなくても来られる方もいらっしゃるというのが、この生涯学習の現場なのです。

ただ寝ていると確かに士気が落ちるといのは、それは確かに私もすごくわかるどころなので、なるべく、これを学びたい、先生の話を知りたいということで、着席していただけたらいいとすごく思うところがあります。

高い料金を払っても、その方の目的のために来られるので、うちから出たいという方は、いくら払っても寝ます。これも生涯学習です。活動的な学習内容や現地学習となると寝てる暇はないですが、講師もそこを理解し、その方が何とか起きていられるように、工夫をしていただきたいというところです。

高齢の方といっても今、104歳の学生が出て、そういうような社会になってきてますから、一人一人の学びたいという意思、その意識をどのようにとらえていくのかというのが、この生涯学習の現場、学習機会の提供するところです。永田委員の今のご発言、本当にその通りなんですけれども、なかなかいろいろな方がいらっしゃるの、そこが生涯学習で、一人一人の学び方があり、なかなかそこが難しいということになるのかなと思いつつながら、専門家として話を伺っておりました。

他に何かご意見ありますか。時間の方もそろそろと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、今後ご意見ありましたら、また事務局の方にいただければと思います。

本日、長時間に渡りましたけれども、忌憚のないご意見をいただきまして、また次の市民学習センターの活動、また市民大学の運営の一助となればと思います。

これで議事を終了させていただきます。